

平成21年10月29日

# 五小の風景 No. 7

五日市小学校長 国政 直文

## 子どもが育つ魔法の言葉 第2弾

インフルエンザによる学年閉鎖や学級閉鎖により保護者の皆様には大変ご心配ご迷惑をおかけしています。学年閉鎖が次々として出てきており、なかなか全員がそろうことができません。今からは季節性のインフルエンザも流行してくると思われまますので、引き続き危機感を持って取り組んでいきたいと考えています。ご家庭でもご協力よろしくお願ひします。

さて、今回も「子どもが育つ魔法の言葉」を引き続きご紹ひします。

- 愛してあげれば、子どもは、自分が好きになる
- 認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
- 見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
- 分かち合うことを教へれば、子どもは、思いやりを学ぶ
- 親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
- 子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
- やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ
- 守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ



これらの言葉の中で、今回は、次の言葉についての解説を紹ひしましょう。

### ○ 見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる

・子どもを見つめ、話に耳を傾ければ、子どもの心が理解できます。子どもが何をどのようにしたいと考えているのかがよく分かることでしょう。それが分かれば、親は子どもに手を差し伸べることができるのです。

・何かをやり遂げるには、目標を決めて努力を重ねなくてはなりません。それを、幼い頃から子どもに教へてゆければ、と思います。そして、子どもが実現可能な目標を立てることができるように、具体的なアドバイスや手助けをしたいものです。子どもを励まし、支えることを忘れてはなりません。

・努力をすれば成果が上がるということを、幼い頃から理解できている子どももいます。一方、そうでない子もいます。親はそういう子にこそ手本を示して、何事も一つひとつの積み重ねが大切なのだということを教へなくてはなりません。

・わたし自身は、お小遣いは、食事の後片付けや掃除やペットの面倒を見ることなど、家庭生活の基本的な仕事に対する見返りとして与えるべきではないと考えています。こういう仕事は、家族の一員として当然協力すべき事柄だからです。わたしは、お小遣いとは、子どもも家族の一員として認めるという意味で、家の収入の一部を子どもに与えるものであると考えています。

・わたしたち親は、日頃から、子どもの努力を認め、うまくいかない時には励ましてあげなくてはなりません。そうしてこそ、子どもは、夢に向かって頑張り屋の子に成長できるのです。子どもと夢を分かち合うチャンスは、ちょっと気をつけていれば、いくらでも見つかるものです。

前回と今回で紹ひしましたこれらの言葉一つ一つには、とても深い意味がこめられています。一言一言じっくりとかみしめてみられてはいかがでしょうか。